

平成 21 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社フルキャストホールディングス
 代 表 者 名 代表取締役社長 漆 崎 博 之
 (コード番号 4848 東証第一部)
 問 い 合 せ 先 エグゼクティブオフィサー 北 川 太
 電 話 番 号 03-4530-4830

第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成21年3月9日付にて公表した第2四半期累計期間の連結業績予想を、下記の通り修正することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

平成21年9月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成20年10月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	34,880	△1,190	△1,302	△3,049	△11,511.57
今回発表予想(B)	34,764	△596	△686	△2,782	△10,503.50
増減額(B-A)	△116	594	616	267	—
増減率(%)	△0.3	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年9月期第2四半期)	49,818	741	691	△103	△389.35

修正の理由

【第2四半期連結累計期間業績予想の修正理由】

第2四半期連結累計期間における業績は、景気の悪化に伴い、派遣先企業において派遣契約の更新の見送りなどが増加し、人材サービス需要の減退が続いております。特にスポット事業においては、受注単価を見直し、営業活動の促進に努めましたが、最も受注が集中する3月下旬に受注件数が伸びず、売上高が前回発表の計画を下回る見込みとなりました。

一方、利益面は、売上の減収ならびに粗利額の減少傾向に改善が見られないことから、賞与支給率の引き下げに伴う人件費の抑制、および諸経費削減による費用の圧縮等により営業損失、経常損失ともに前回発表の見込額から損失額が減少する見通しとなりました。

特別損益では、業績の悪化を受け、グループ各社にて不採算拠点の統廃合を3月末に促進させたこと、店舗閉鎖損失が増加したこと、連結子会社にて「のれん」の減損処理を実施すること等から、特別損失が前回発表の見込額からさらに増加する見通しとなりました。

以上の結果、上記【平成21年9月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正】に記載のとおり、修正いたします。

なお、平成21年9月期通期連結業績予想につきましては、スポット事業をはじめグループ各社の受注状況、上場子会社（株式会社フルキャストテクノロジー）の通期業績予想の修正（※1）、ならびに事業所の統廃合、グループ人員の削減、役員・従業員給与の減額等、経営合理化の諸施策（※2）が通期業績に与える影響を考慮し、現在計数を取りまとめております。

公表につきましては、平成21年9月期第2四半期決算短信にあわせ、平成21年5月8日に開示する予定であります。

※1 平成21年4月27日開示「子会社（株式会社フルキャストテクノロジー）の第2四半期累計期間および通期業績予想の修正ならびに特別利益および特別損失の発生に関するお知らせ」をご参照ください。

※2 平成21年4月9日開示「経営合理化の取り組みに関するお知らせ」をご参照ください。

以 上

当社グループの計画、見通し、戦略などのうち、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。

従いまして、当社グループの業績、企業価値等を検討されるに当たりましては、これらの見通しのみにも全面的に依拠されることは控えて下さるようお願いいたします。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済・金融情勢および雇用情勢の変化、(2)地震などの災害に伴う企業インフラの損害、(3)当社グループの行う事業に適用のある労働基準法、労働者派遣法等の関連法令の変更、解釈の変更などです。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果により、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。